

福島県地域創生・人口減少対策有識者会議
プレゼンテーション資料 1

平成 27 年 5 月 29 日
委員 森川英治

福島銀行の地域創生に向けた取り組み

1. 「金融を業とする地元企業」としての取り組み

- 地域金融機関として、「将来にわたって主要な営業地盤である『福島県』の繁栄なくして当行の繁栄はない」という基本認識。
- このため、中期経営計画では「人が生き生きと暮らす福島を創る」とことと「企業活動が活発に行われる福島を創る」ことを基本方針としている。
- 基本姿勢は、金融を業とする地元企業として、地域社会の活性化に取り組むこと。
- 「住み易い福島創り」＋「仕事創り」が大きな柱。

(1) 人が生き生きと暮らす福島を創る

- 「人が住み易い福島」「人が住みたくなる福島」を創る。

イ、金融面からの生活支援

- ライフステージ毎の個人のライフイベントをサポートする商品・サービスを提供。
 - お金で解決できる悩みを軽減する手伝い。

ロ、地域・社会貢献

- 地域社会やそこに住む人々を元気にする活動への貢献強化。

—— 社会的弱者支援、環境問題への取り組み、人々を元気にするイベントの実施や支援等。

(2) 企業活動が活発に行われる福島を創る

- 仕事創り＝企業活動の活性化＝企業支援（県内で活動する企業数をできるだけ増やすとともにそれらを繁栄させるための努力）。
- 創業期、成長期、成熟期、転換期といった企業のライフステージに応じた支援を強化。

▼創業期……創業支援

—— 専担チームを設置し、外部の専門家と組んで起業家を発掘・支援（創業支援セミナー、創業準備、出資、融資、経営支援・指導等）。

▼成長・成熟期……課題解決支援

—— 専担チームを設置し、企業の課題発掘と解決を支援。

▼転換期……事業再生支援

—— 外部専門家と組んで、再生手法の高度化を目指す。

2. 一企業として社内向けの取り組み

(1) 働きやすい環境作り

イ、雇用期間延長

- 定年後も希望者は満 65 歳まで再雇用。

—— 必要に応じ現役同様に職位付与。給与も大幅に見直し。

ロ、残業削減

- 女性活躍の最大の障害となっている恒常的長時間残業を削減（営業店の平均退行時刻は 3 年前と比較して約 1 時間繰り上がり）。

- 事務集中をはじめとする事務合理化を実施。

ハ、女性活躍支援

- ① 経営幹部への登用（役員＜監査役＞1名、営業店長5名、課長クラス1名）。
- ② 将来の登用目標設定（女性管理職割合：27年3月末11%→30年3月末20%、女性渉外比率：同22%→同35%）。
- ③ 女性向けマネジメント研修の充実（プレミアム、リーダー、プレリーダーの3段階研修）。
- ④ 女性によるプロジェクト（商品開発等）
- ⑤ 産休・育休取得者に、インターネットを利用した行内情報提供サービスを開始。

（2）若者の勉学支援

- 当行で正社員として勤務しながら福島大学で勉学できる制度の創設。
 - 夜間に開講される科目だけで卒業できる福島大学の特性を生かし、授業のある日の勤務時間を30分～70分短縮することで、仕事と学業の両立を可能にする。
 - 経済的理由等で大学進学を断念する若者にチャンスを与える。
 - 4年間で大学卒の学力と銀行業務の基礎知識の両方が身につくメリット。
 - 卒業後の拘束なし（当行で継続して働くことも、転職することも可）。

以上

平成 27 年 5 月 29 日
委員 森川英治

巢鴨地蔵通り商店街

1. 概要

- 東京都豊島区にある「とげ抜き地蔵」で有名な高岩寺の参道を中心とした全長 800 メートルの商店街。
- 「おばあちゃんの原宿」として有名（四のつく日の縁日の人出は 4 万人。年 3 回の例大祭は 10 万人以上）。

2. 平坦ではなかった道のり

- 元々は周辺住民を顧客とする「日用買回り品」中心のごく普通の商店街。
- 1891 年に高岩寺が上野から当地に移転（東京市区改正計画による強制移転）
 - 従前の檀家と切り離され、高岩寺は極度の経営不振に。
 - この時点では、高岩寺と商店街は無関係。
- 高岩寺の経営努力（四のつく日の縁日化）や 1900 年代初の交通機関（鉄道）の発達によって徐々に参拝客が増加。
 - しかし、参拝客相手の商売は露天商が中心。
- 1969 年、巢鴨駅前に大型小売店開店。
 - 「日用買回り品」需要は巢鴨駅前の商業地区にシフト。
- 本格的に参拝客・高齢者重視に方向転換。

- 「茹で蛙状態」からの脱却。
- 高岩寺との連携強化（参道・仲見世化）、高齢者向けの商品開発等。

3. 活性化のポイント

① 徹底した高齢者指向（高齢者のテーマパーク）

（例）

- ・ 「〇〇専門店」を名乗る店が多い。
- ・ 大きな文字で商品表示。
- ・ 歩道に段差なし。
- ・ スロースピードのエスカレーター（地下鉄）
- ・ 多数の休憩場所（座りスペース）。
- ・ 「SですかLですか」ではなく「小さいのにしますか、大きいのにしますか」と聞くハンバーガーショップ。
- ・ スタバより喫茶店（「コーヒーひとつ」で注文完了）。
- ・ 懐かしさの演出（街づくりや接客）。

② 名物はあるが、特定商品に頼らない。

—— 各店が独自に商品開発し、それぞれが名物化（赤パンツ、塩大福、カレーうどん、八目鰻等）。

—— 単品で売る「〇〇の町」とは対極の姿。

③ コミュニケーション重視

—— 馴染みの店とお客とのコミュニケーション。お客同士のコミュニケーション。

④ 「商店街振興組合」の前向きな調整力と自己改革力

—— イベント反対者の説得や出店調整。

—— 若手中心のワークショップの定期開催。

⑤ 行政（補助金）に頼らない街づくり

—— 段差ができるからと、補助金による歩道建設を拒否。

4. 教訓

- ① 地蔵通り商店街は一日にして成らず。
—— すぐ効く特効薬はない。相応の時間と努力の積み重ねが必要。
- ② 地元民（商店主）が立ち上がらなければダメ。
—— 地元民が本気を出せば大抵のことはできる。行政は脇役、補助金は麻薬。
- ③ ソフトが大切、ハコモノは二の次。
—— ヒトが一番感動し魅かれるのはヒト。
- ④ 儲かる店に後継者問題なし。

以上

とげぬき地蔵尊 高岩寺



とげぬき地蔵尊 高岩寺「洗い観音」



商店街の中央部に鎮座する曹洞宗萬頂山高岩寺は、「とげぬき地蔵尊」という名で親しまれている名刹です。江戸幕府の開府以前の慶長元年(1596年)に、現在の外神田二丁目が開創され、60年後、下谷屏風坂に移転。そして、現在ある巢鴨には明治24年(1891年)に移ってきました。ご本尊であり「とげぬき地蔵」として靈験あらたかな延命地蔵尊(秘仏)は、多くの善男善女から信仰を集めています。また、境内の「洗い観音(聖観世音菩薩)」は、水をかけ、自分の悪いところを洗うと治るといふ信仰が生まれ、今は2代目の観音様を布で洗うようになっていきます(初代は後部の厨子に納められています)。



商店街

- 和菓子・甘味処
- レストラン・食事処 等
- 喫茶
- 食料品・食材 等
- スーパー・コンビニ
- 鮮魚・青果
- 衣料品・呉服 等
- 雑貨・生活小物・化粧品 等
- 靴・カバン・傘 等
- 家具・インテリア・寝具 等
- 生花
- 薬局
- 病院・歯科・診療所
- その他



江戸六地藏尊 眞性寺

「江戸六地藏尊」の1つが奉られている眞性寺は、江戸時代初期の元和元年(1615年)に祐遍法印が中興開基した古刹。現在は真言宗豊山派のお寺となつています。旧中山道の入口にあたる本寺と大きな笠をかぶつたお地蔵様は、「江戸名所図会」にも描かれ、江戸時代から江戸六地藏尊参りて親しまれ崇拝されてきました。境内には「芭蕉の句碑」もあり、歴史を今に伝えています。



すがもん

平成26年7月4日現在